







**D I P L O M A**

**D E S I G N**



■最優秀賞

## まちのうえのまち

### Concept

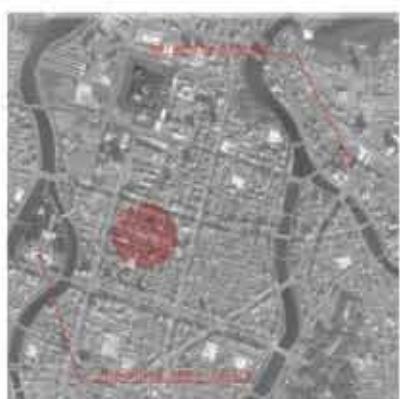
戦後以降急速な都市建設が行われてきた結果、時代とともに都市形態はどんどんと変化している。そんな中で、都市の風景は地上からの景色を重視するあまり、見せかぐるるものを見下してしまいがることが多い。これらが生じた設計が行われているのが現状だ。そこで、高層化するなかで、中層建築層上空間を高層建築から見下ろす視線とどちらかしら新しいものとなる空間を作り出す。



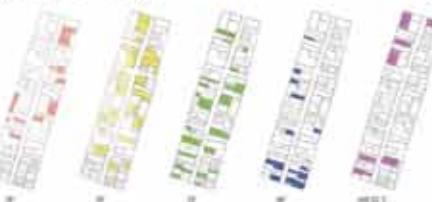
### Site



浅野一文 様  
Ayaka Asano  
建築意匠研究室



### Existing Building



### System



中層建築が立ち並ぶ都市に高層建築が建つことによって、中層建築を見下ろす視点が出現する。

### Unit / Program distribution

Terrace garden



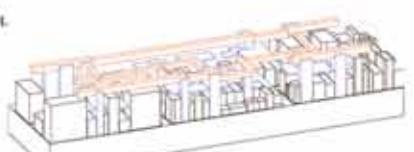
開口部は、主合構をして自然エネルギーを活用するために、内部への採光や通风が都心面であることを確保できる。



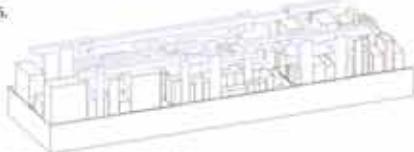
(地)と(屋上)を結ぶ。都市にあふれている駐車場や空き地に建った駅が入ることで活用する。



建築群の上に存在する空間(屋上)に新たな地となるスペースを設ける。



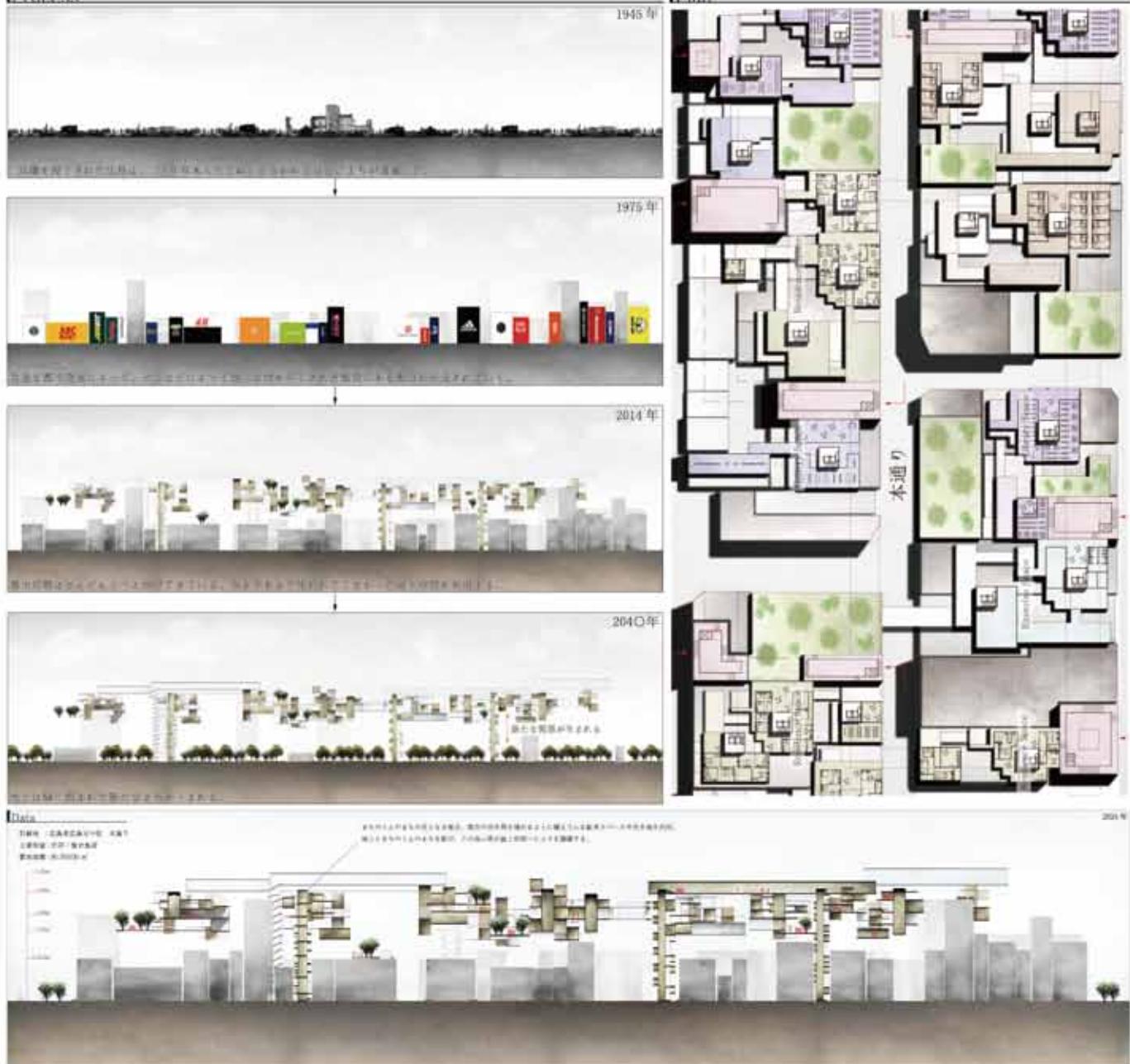
(地)と(屋上)を結ぶための足部分とあらたにできたスペースを設く。



橋脚を配置する。新たな景色が広がる。



## Process



## Future



# SELECT ROOM

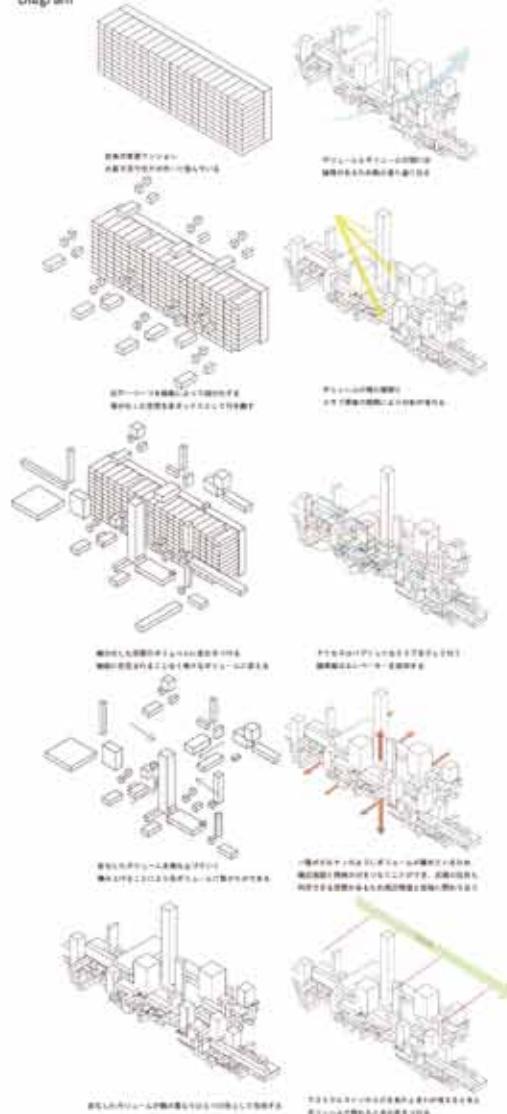
## ー賃貸の新しい生活ー

### Concept

本計画では現代の賃貸住宅における問題と可能性を見つめなおす。  
これまでの経済社会では、持ち家を保有することに資産としてのア  
ドバイスがあり、賃貸住宅は持ち家を保有する前の仮住まいとして考  
えられてきた。しかしこれからは持ち家保有のメリットも相対的に  
低下し、消費者意識としても持ち家を保有する不安の方が大きい。  
そこでこれから需要が進んで行くであろう賃貸住宅について新しい  
あり方を提案する。

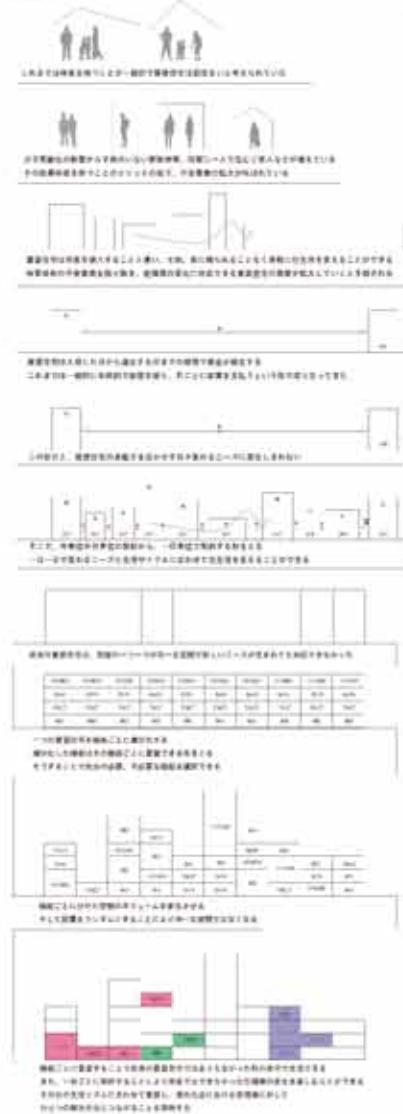


Diagram



Problem

本計画は現行の賃貸住宅における問題と可能性を示すものです。問題に対する解決策も併せて検討することで、現行住宅における住環境の改善につなげます。



System

一階分化し変化させた空間を一日ごとに賃貸する。

1. 賃貸設定  
施設を複数つくりひとつの空間に賃貸が出来ます  
そのためお部屋は複数で賃貸を設定していく

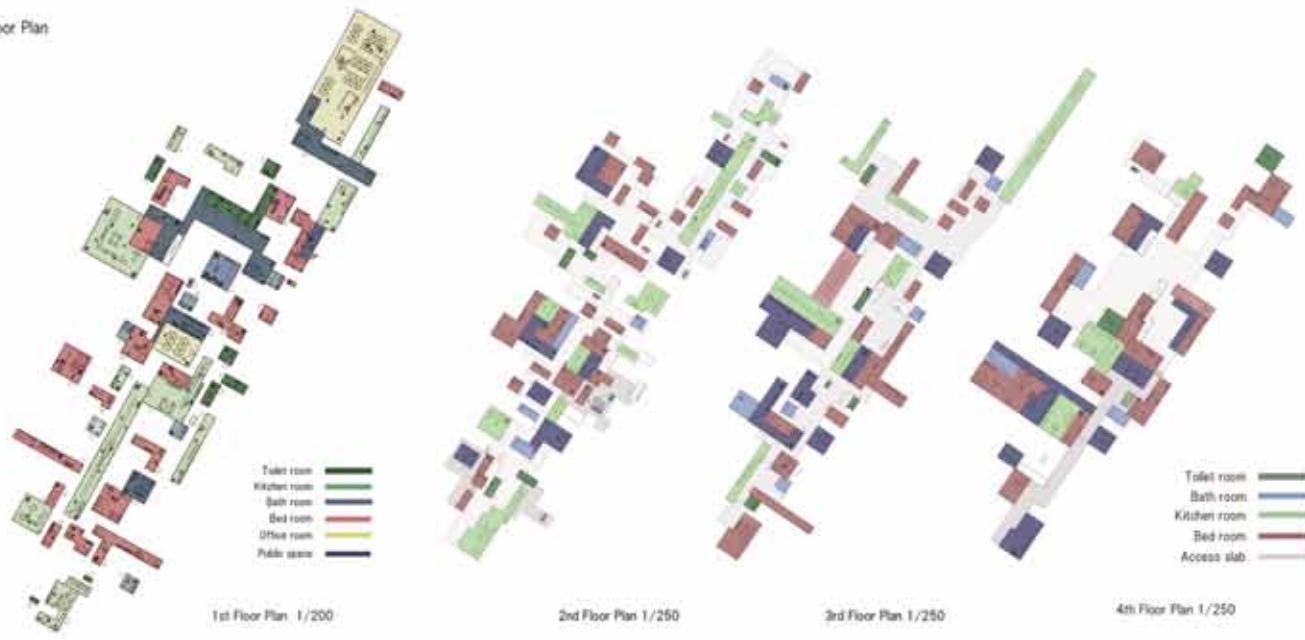


2. 計画設定  
ここに寝てもあわってのルーム





Floor Plan



**■優秀賞 3位**

# COLOR — What color? ...? —

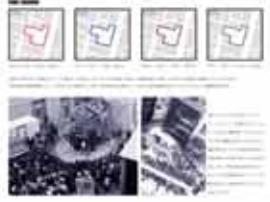
**Concept**  
 過去の伝統形態に合わせて形作られたファッショナブルな時代は時代の流れとともに生き残るファッションを取扱っているにも関わらず、ショモウイングなど時代の変化に建築物が追いつかず、取り残されシンボル化しているように感じる。  
 そこで新しいショモウイングスタイルの1つとして「伝島のアーティスト」である吉田豊宏を極端に表現し、一窓一窗口化した曲面施設を提案する。

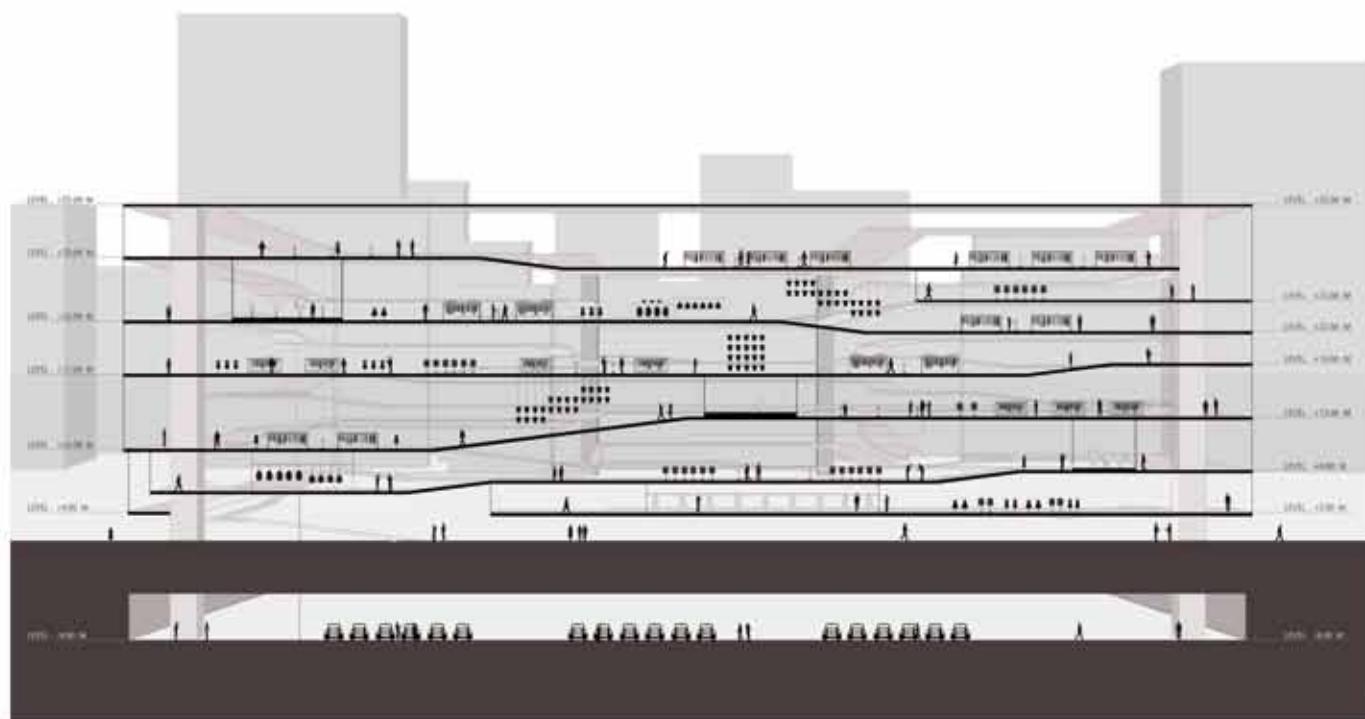
**SYSTEM**  
**Advertisement**  

 Naito Toyama  
 建築意匠研究室  
**Collection**  

**INPUT**  





■優秀賞 4位

## THINK GLOBAL

～6年間かけて世界を回る小学校～

### Concept

小学校の傳統概念を破壊し、グローバルな人材を育成する新しい小学校の提案。

6年間で世界中を回り、様々な地で様々な人種、文化、言語、食、宗教、伝統等に触れ、それに加え、本当の意味での他の国を知ることができる。

普通の小学校では絶対に体験し得ない経験ができ、人とともして成長できる小学校を提案する。

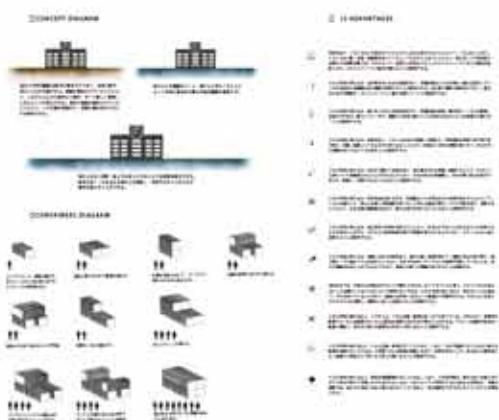


谷口 知陽  
Tomioaki Tomiyoshi  
建築系専門別科

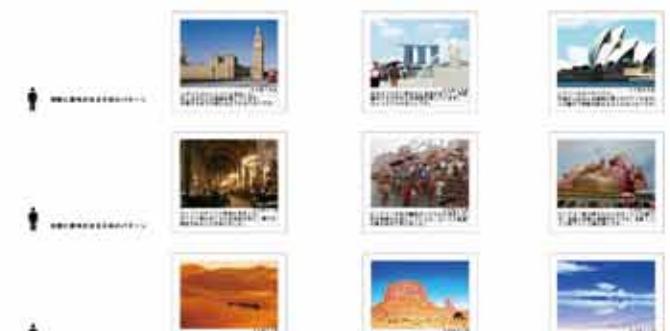
### Axonometric



### Diagram



### SITE and ROUTE



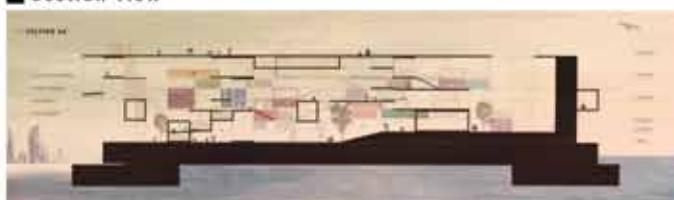
### Plan view



### Perth



### Section view



■優秀賞4位

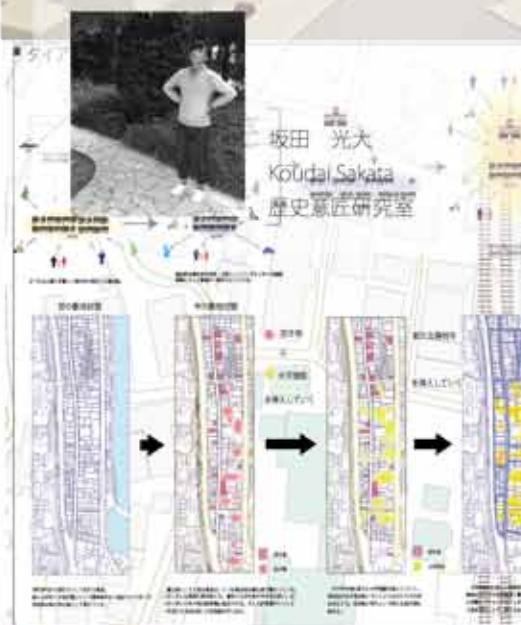
## ぶらり

### ー路地でつなぐまちと大学ー

#### Concept

昔の商店街は賑やかな賑わいがあった。現在の商店街は、近現代の進歩、大型ショッピングモールの建設、少子高齢化などの原因により衰退してしまった「シャッター商店街」と呼ばれる風景になってしまった。

本計画は衰退した商店街に大学を組み合わせることにより、社会から隔離された大学を社会に開かれた大学に変貌させ、それとともに商店街周辺地域を活性化させる提案である。



# 日常に異文化を —食でつながり、食でひろがる—

## Concept

多くのまち大仏は食べ物との関わりが非常に強いものである。かつて日本全国の露店が大阪に集結し、大丸堺を中心とした一大の台所として栄えた。ものが集まるが所には人が集まり交流が生まれる。本計画では、開港式典が頻繁に行なわれたり觀光客や留学生が多く来る、訪れる中之島に居た人とそれらの国の豊かな文化を交換を始めものよりどこなる異文化交流拠点を目指す。

月待 裕貴  
Tsukimachi Yuki  
建築意匠研究室

対岸から見る異文化交流施設

河上からの風景

各国の食事と触れ合う

■ 敷地



■ ダイアグラム



広場で触れ合う

■ 平面図



本計画は太陽光発電による電力で運営する予定である。

現在、周辺開発によって既存の水路が埋め立てられ、開港式典が開催される場所でもある。また、川から多くの観光客が訪れる場所でもある。

本計画では、開港式典が開催される場所を活用して、異文化交流拠点としての機能を強化することを目的とする。

■ 広場



■ アクセス



■ 分塔型



■ 断面図



川からアプローチを眺める



屋上からの風景



各国の食事と触れ合う

# 3 × 6 house

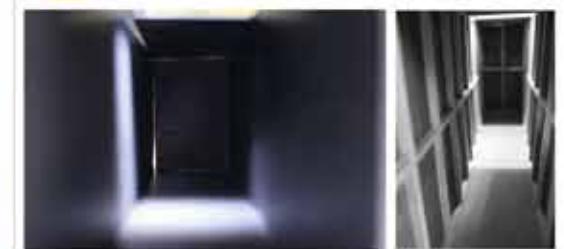
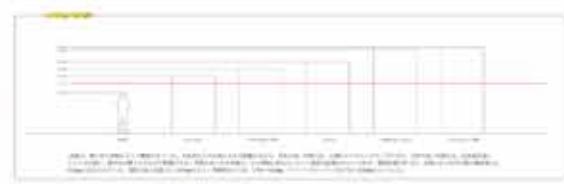
## Concept

「作りたい！」そんな漠然とした感情が建築を学ぶ中でいつもどこかにあった。4年生になってからその感情の理由を明確にできぬ。

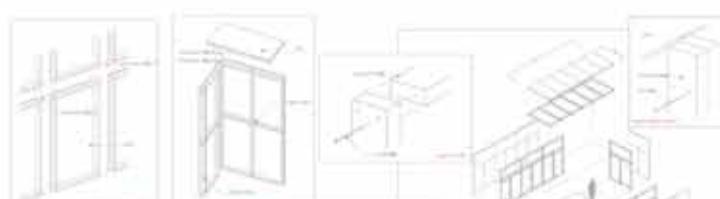
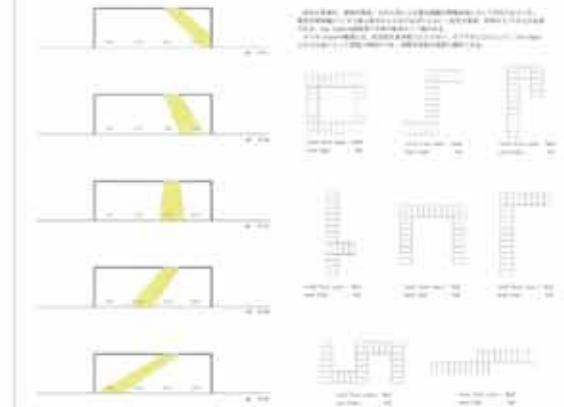
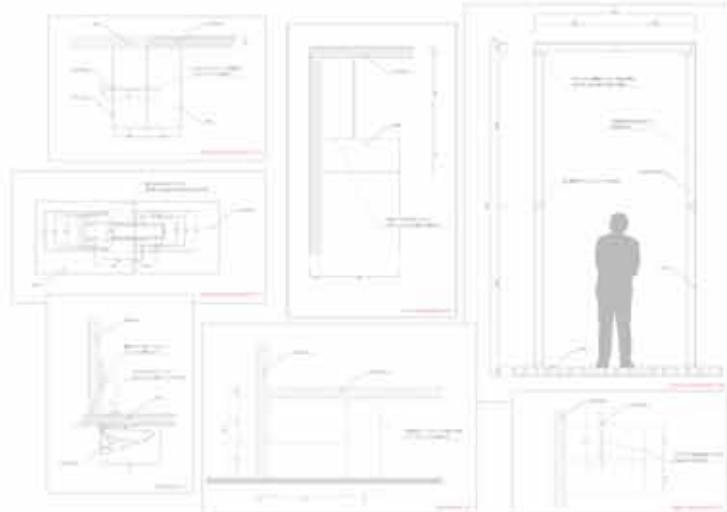
スクープコンペや設計競闘などで建築を考えることはあってもそれが実現することはめったに無い。本來、建築はつくられるもの、できる山登りのもの、そして人のために作るものである。本設計では、ワンピースができる仮設住宅を実現し、それを「1/1」でつくる。



島崎 真輔  
Shinsuke Shimasaki  
建築意匠研究室



上部のパネルを剥がしていく。床面にドリルで穴を開け、各部のパネルをバネで固定する。壁面に貼る木目パネルを貼り付ける。この段階で窓枠を組む。窓枠に組み替えた窓枠を壁面に貼り付ける。



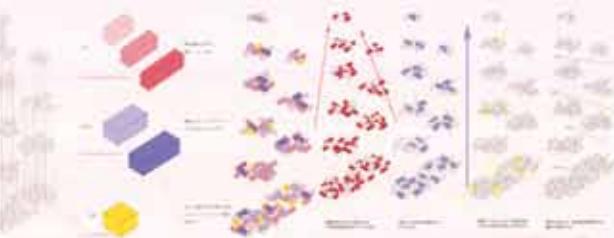
## 3rd life

### Concept

現代、様々な問題を抱える集合住宅における新しい集合住宅の提案。集合住宅は我が国において子供を育てる世代にのみ計画された。そこでは生れる子どもの置かさは二の次とされていた。そのため子育てを終えた世代は将来に対する不安のみが残ることになる。そこで子供が成長するまでの期間を第一とし、子育てを終している期間を第二、第三は子育てを終えた後の期間とし、その世代に向けた新しい集合住宅の提案である。



奥村 雄  
Yu Okumura  
建築意匠研究室



# NEW CYCLE

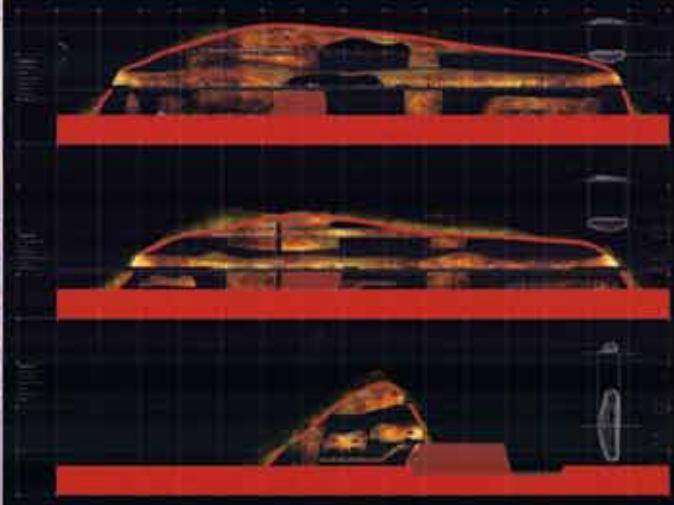
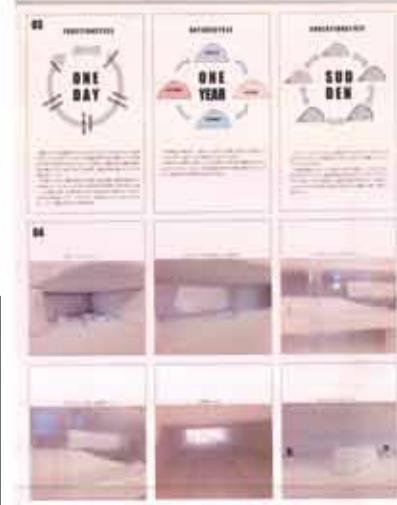
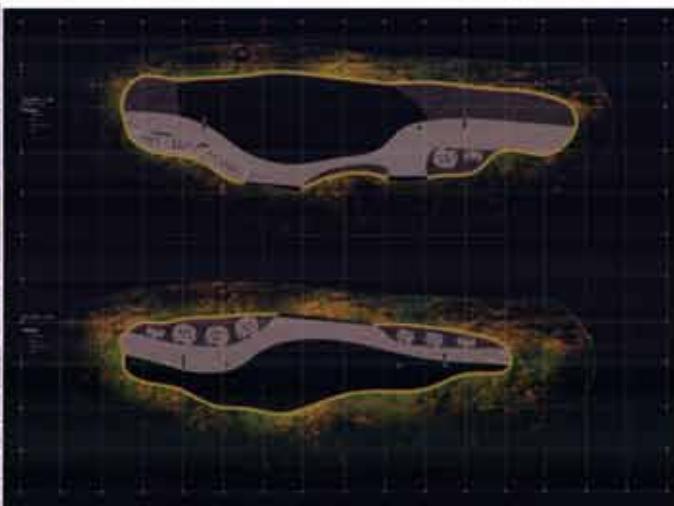
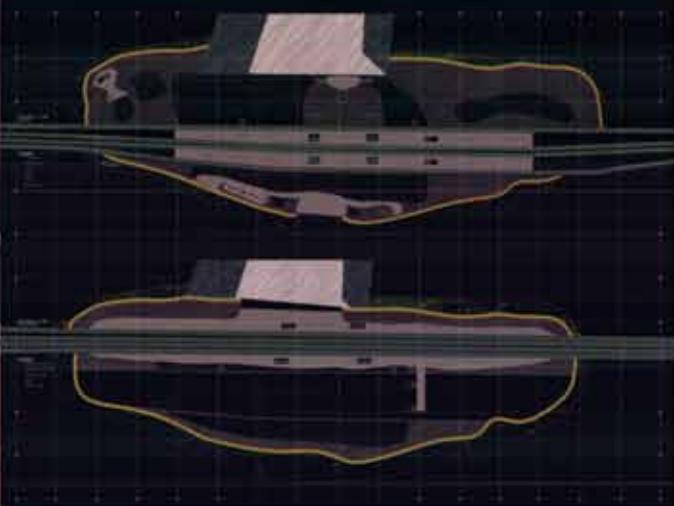
## —人とともに廻る駅—

### Concept

駅とは、本来その街の象徴としてあるべきはずなのに、現代の駅は、機能ばかりを求めすぎてそのサイクルは本來人を取り巻くサイクルから離れているのではないだろうか。従来の駅のほとんどは、ただ能率を持つだけの空間であり単なる通勤通学等の通過点にしかすぎず、駅で過ごす時間は何気ない一日のサイクルになってしまっている。そこで本計画では、人取り巻く三つのサイクルを内包し、人のサイクルに寄り添った駅を提案する。



徳留 啓太  
Keita Fukudome  
建築設計専攻



# 繋続

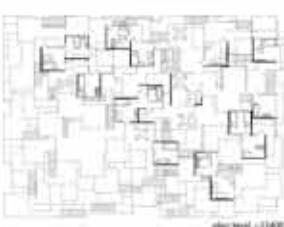
—繋がりを失くさない—

## Concept

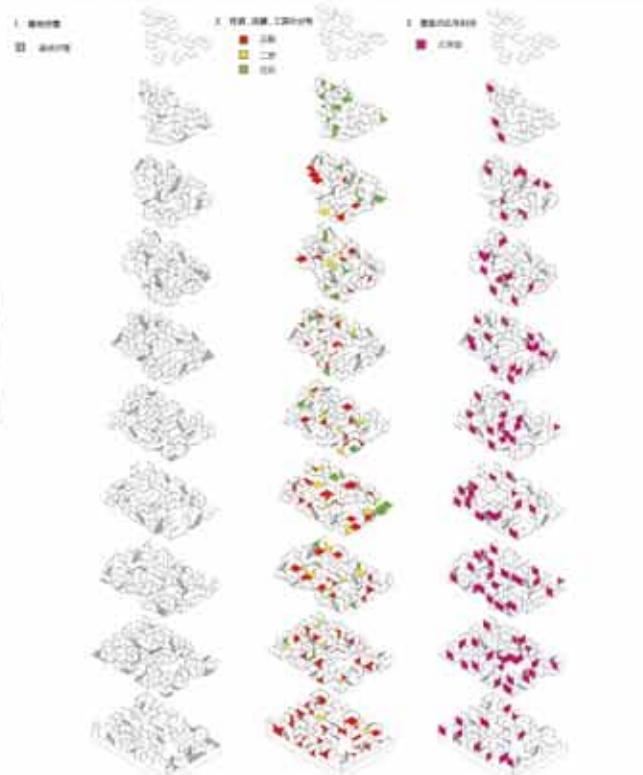
現在の商業施設の多くでは、各店舗が個に並んでいる。利用者は店舗の部分のみを利用し、裏の部分を目にすることは少ない。物の流れられる過程を知る型と比べて、物の良さがより分かるのではないかだろうか。そこで、商業施設の裏の部分にもスポットを当てることによって、ただ通りすぎるだけではない施設を提案する。住戸には各店舗の住民や職人が住むことで、一つの建築に衣食住を兼ねる。



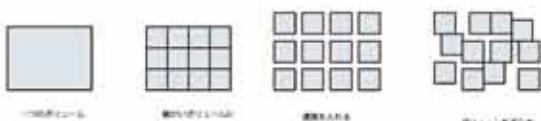
是常 文洋  
Fumihiro Koretsune  
建築意匠研究室



1. 建物外観  
2. 開口部



Diagram

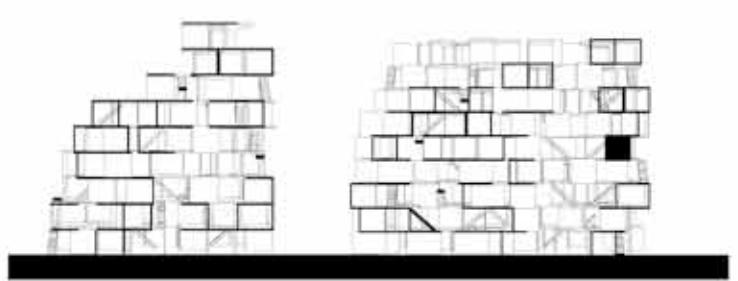
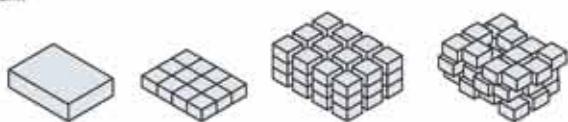


ガリューは単体に並べるのはなく、ボックスによって空間の内蔵に変換が可能。

Diagram



Diagram



section

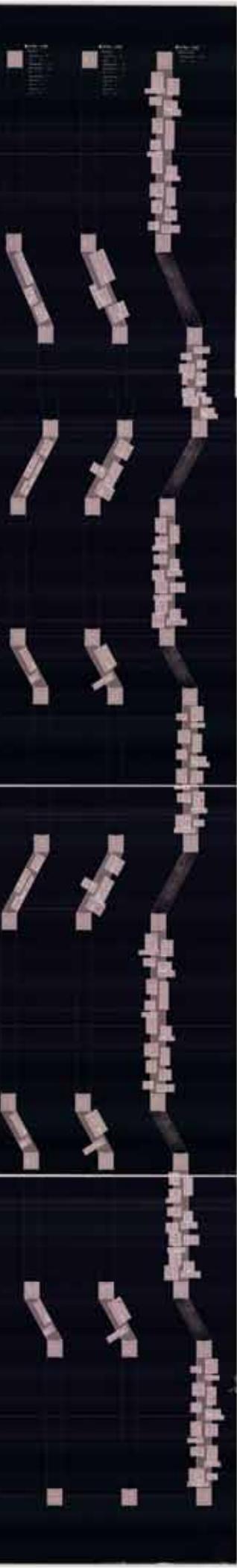
# EDGE CITY

## Concept

本計画では大規模な被害をもたらすことが予測される首都直下地震に備え、沿岸部においてもともと効率よく人々が避難できることが可能な集合住宅と商業施設を兼ね備えた複合街の計画を行う。



重松 大貴  
Daitoku Sigematsu  
建築意匠研究室



# エキスボ町

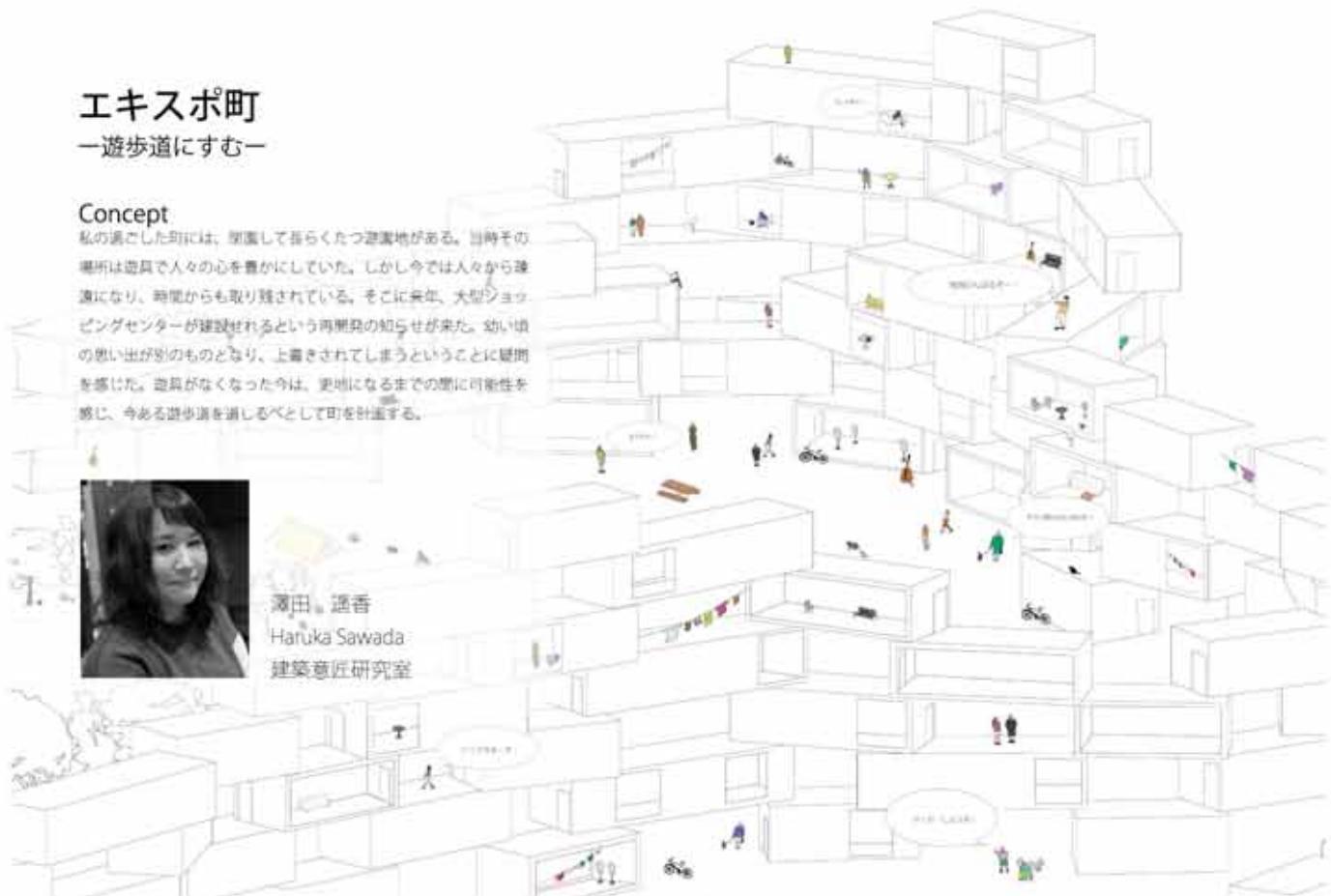
一遊歩道にすむー

## Concept

私の過ごした町には、閑散して孤らされた遊歩地がある。当時の場所は遊具で人々の心を豊かにしていた。しかし今では人々から疎遠になり、時間からも取り残されている。そこに来年、大型ショッピングセンターが建設されるという再開発の知らせが来た。幼い頃の思い出が別のものとなり、上書きされてしまうということに疑問を感じた。遊具がなくなった今は、更地になるまでの間に可能性を感じ、今ある遊歩道を遺していくべとして町を計画する。



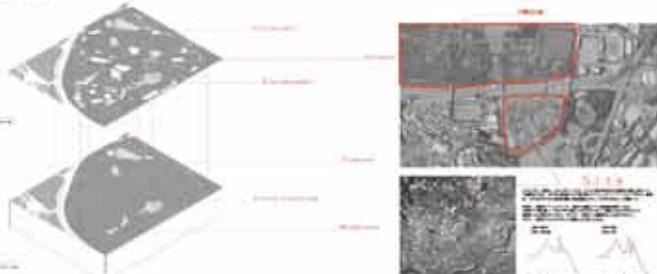
澤田・遥香  
Haruka Sawada  
建築意匠研究室



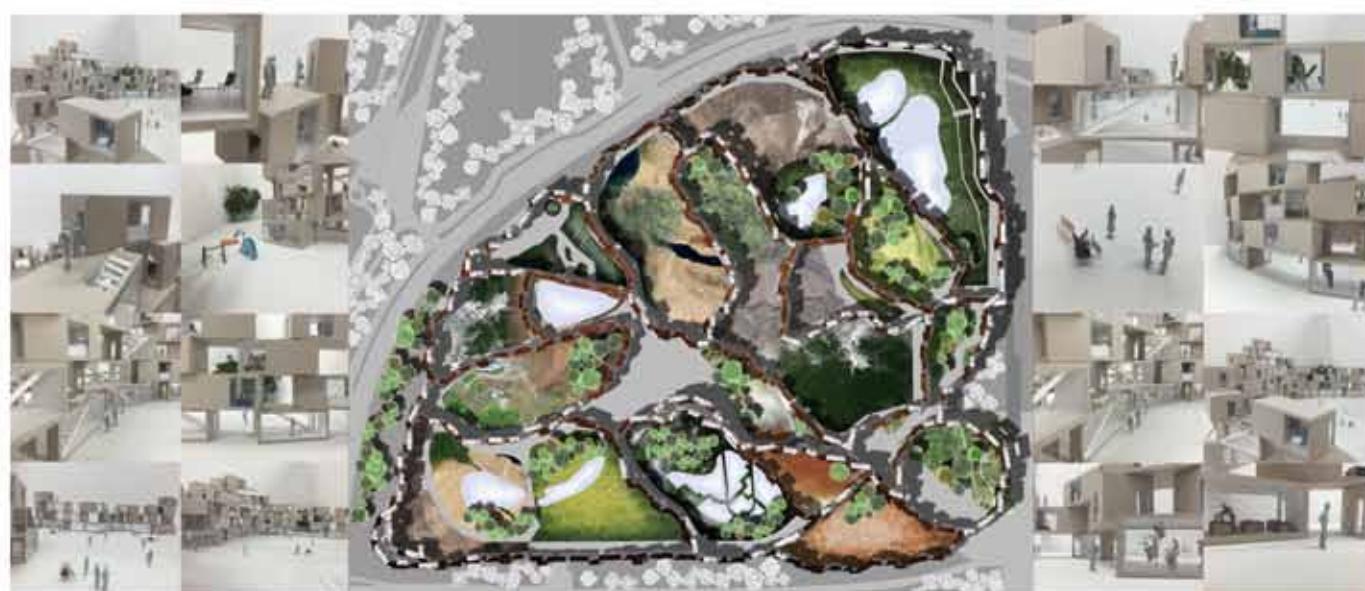
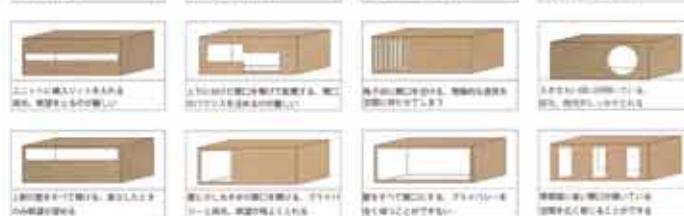
01 Diagram

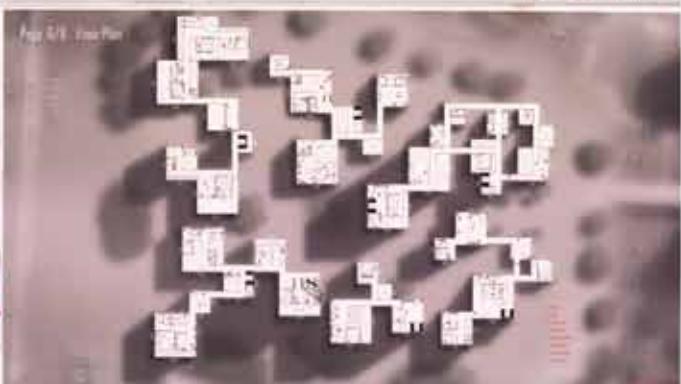


02 Site



03 Floor Plan





# Reborn rail

～七つの遺産～

## Concept

かつてモノレールは、人々とを駅舎と手柄山間を連絡するものであった。今現在、手柄山方面は、駅舎駅周辺に比べ人が少なく退廃化が進んでいくると言っても過言ではない。今回の計画では、今現存取り残されたてしまったモノレール施設に計画する建築を組み合わせることにより、以前までの動線を取り戻す様な建築を提案する。



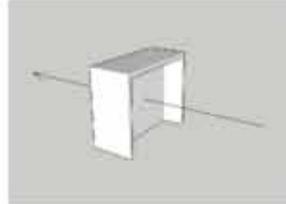
上川 裕明

Hiroaki Kamiawa  
歴史系匠研究室



ダイアグラム

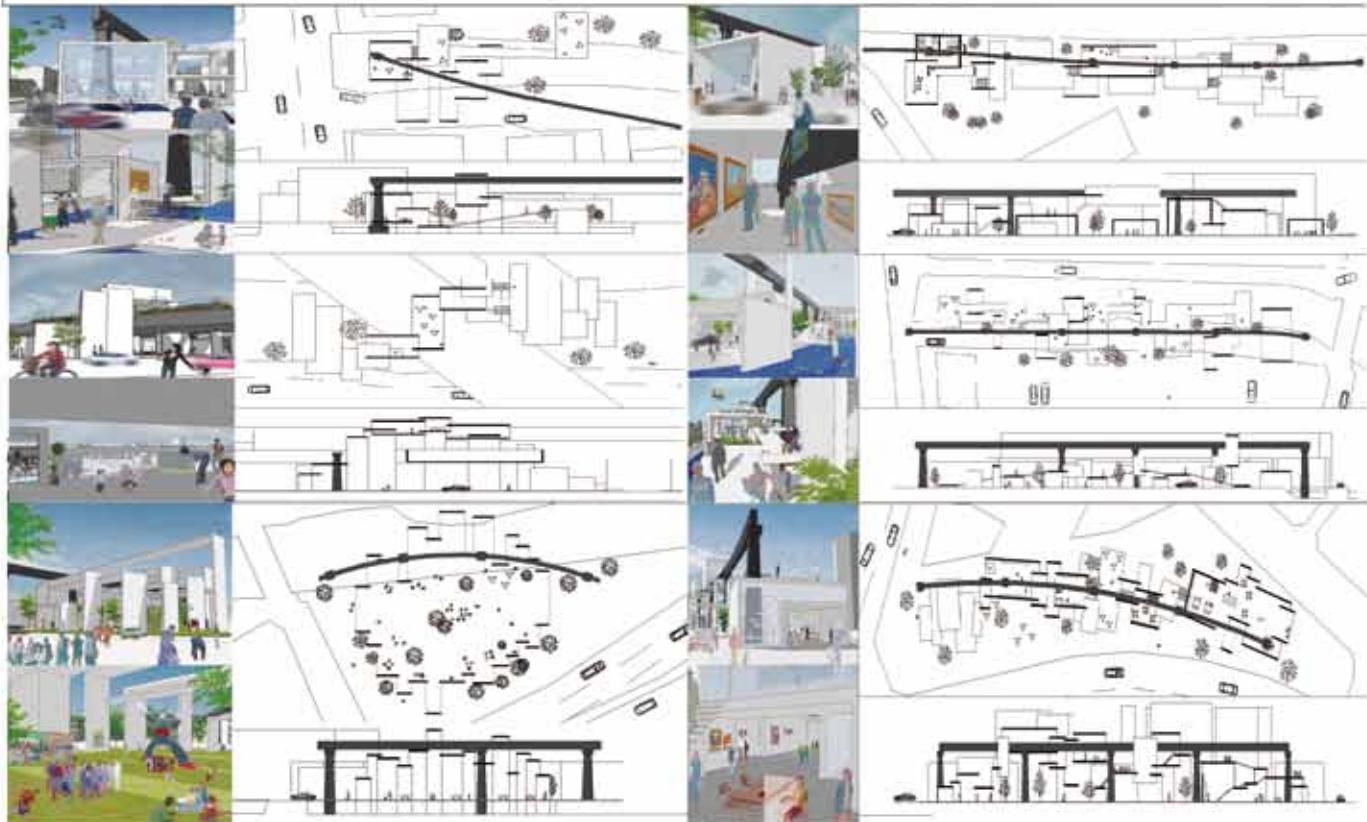
四角いボリュームに動線を無理やり挿入する



モノレール実線に沿った動線を記入する



動線方向に穴を開けたボリュームを組み合わせ建葉とする

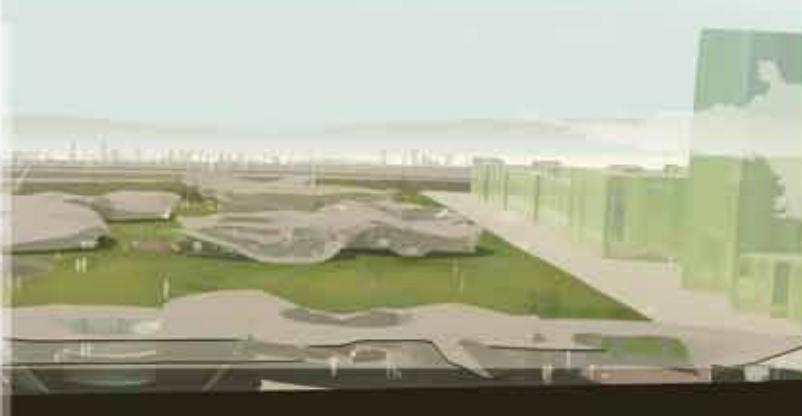




# 広場に集まる波紋

## Concept

広場にはその地域の活性や特徴が現れる。目的が違う人々が同じ場所で活動することによって、広場は豊かになり、その地域には活気がつく。現在の中央公園には人々の活気が見られず、閑散としている。そのため周辺地域の活性化が求められている。さらに周辺環境の変化も著しい。隣接する元町集合住宅は高齢化、多代続化によりコミュニケーションの不安定化、住民の老朽化などの問題がある。本計画は広場に活動を取り戻し、新たな広場を提案する。



山縣 恵史  
Satoshi Yamagata  
歴史意匠研究室

活動から波紋が生まれる



波紋は人々に影響を与える。  
そこから新たな発見・活動が生まれる。



活動がさらなる活動に繋がる。  
人のみならず多くの生命の活動が波紋を生み出し周辺環境にすら影響を与える。波紋となる。



活動から生まれた波紋を形化する。



data

計画敷地 広島県広島市基町  
中央公園  
主要用途 広場  
敷地面積 約 81753 m<sup>2</sup>



広場には多くの活動が行われている。

それぞれの活動が波紋のようにして互いに刺激し合いかながら、広場を豊かにしていく。  
しかし、活動の少ない広場は周辺の活気を奪い去っている。活動の少ない広場は言い換えれば大きな空き地なのだ。  
そこで、活動を広場に取り戻し、活気ある新たな広場を提案する。

# 径（みち）ここにあつまり ここから始まる

## Concept

人は道をかどって目的の場所へ行く。道の筋やがたは直からえてくる。現代は交通の大筋だけのものになった。そこで、人や歩道、荷物などありとあらゆるものを行き来し、それらの流れそのものが道となり建築を形成する。目的地が先に決まっていて、そこそそこちで歩いて行くのではなく、道を歩いているうちに目的地を見つけるような旅路を提案する。



久保添 美月  
Haduki Kubozoe  
歴史意匠研究室



□ 01. 動画



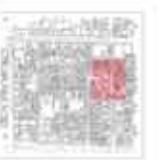
01. 動画



02. 動画



03. 動画



04. 動画

□ 02. Diagram



□ 03. テクニカル



# 子供の遊び輪

## Concept

現在鳴門市では、子供たちの遊び場所が少なすぎる。友人同士で集まても遊び場所に困ることが多い。遊び場所がないという課題は幼稚園、小学校、中学校、高校と年齢が上がっても変わらない問題である。計画は行動範囲が狭い幼稚園から小学校くらいまでの子供たちを対象とし、子供たちが集まる明るく楽しい場所を計画する。



### 徳島県

四国の中部に位置する、南北の複数平野を挟んで全体的に山地が多い。最近は地方や県民の説明を知りたいという「いの東日本」政策を行っている。河童踊り、すだち、徳島ラーメン、眉山などがある。

### 鳴門市

徳島県の北東端に位置する。鳴門の漁港や四国八十八か所一番札所の眉山寺、日本最大級の常設展示スペースを有する大原国際美術館、大谷原・藍染めなど徳島県の中でも多くの観光地がある。

### 阿波踊り

徳島県では、運動会や体育祭などで阿波踊りを実行している学校が多く、夏祭り阿波踊りを実験する子どもたちが多い。近年では徳島県だけでなく全国各地で行われ、毎年度には大きな阿波踊りの祭典「Nawa Odori Party 2013」がフランスへと開催される。

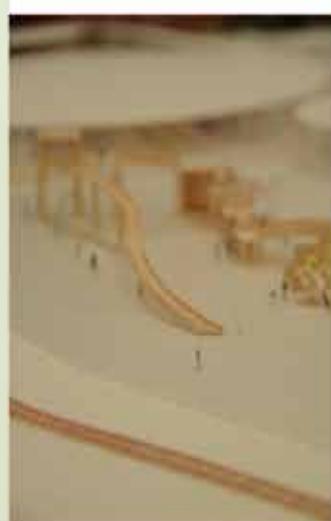
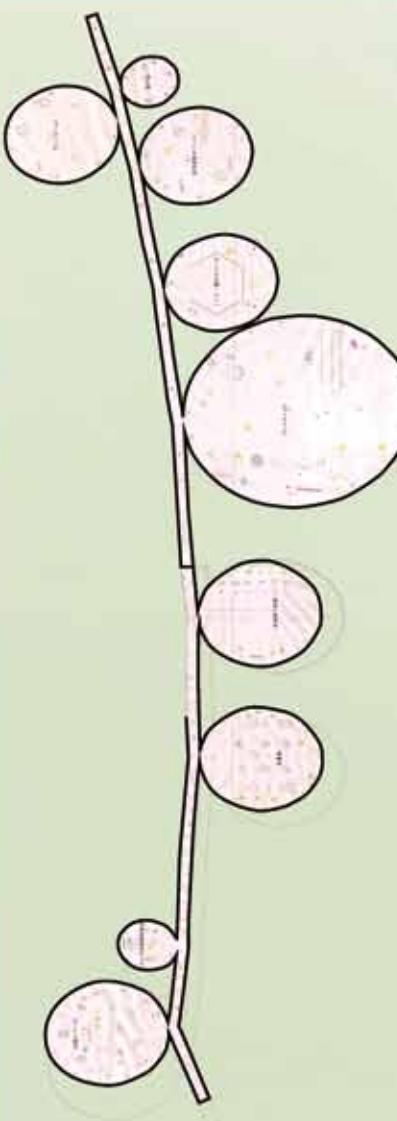


全体のコンセプトは連音で一縦といえる阿波踊り、阿波踊りの一体感、手足や体の上下に揺らぐ動きを表現する。

### concept

「踊る阿波に見る阿波、同じ阿波なら踊らな振り」「かけ12かけ3かけて、しがけた踊りはやめられない」「かけ6かけ7かけて、やっぱり踊りはやめられない」という掛け声があり、楽しさな振舞という意味を込めた計画。

徳島県全体になりきみのある阿波踊りをコンセプトとした。



# つなぐ“かべ”

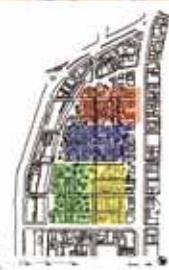
## — 養老施設による呉市商店街再編 —

### Concept

最も身近な社会問題として高齢化社会や人口減少などがあり、身近に感じられるのが商店街である。現在の商店街はシャッター街が増加傾向である。また、高齢者が豊かな高齢期を過ごすための対策案として幼者複合施設があるが、土地や収存施設の有効活用といった戦略的な事情がある。さらに、集合住宅では便利な立地は高齢でコミュニケーションも不足である。これらの問題点を商店街のリノベーションに結びつい、活性化を目指す。



赤松 絵里  
Eri Akamatsu  
環境設計研究室



現在、最も身近な社会問題として高齢化社会、人口減少、収容問題などがある。それを克服するには、より多くの交流が必要である。また、現状では既存の施設の活用度合いが低く、シャッター街となり、商店街活性化を阻害している。そこで本提案では、地域活性化の観点から、シャッター街を解消していくため、サブストラクトアートを行なっている。

商店街には様々な空間や場所が存在する。現行の問題点として、斜坡・遮光問題、コミュニティセンター不足、通路空間の狭隘性、狭い狭小な土地の活用等が挙げられる。これらを解決するためには、空き地等と共にニーティングボックスを利用したり、シャッター街を解消していくため、サブストラクトアートを行なっている。

新規施設とは、下側の商店街と接続する施設の内壁・外壁に沿ったものである。既存施設（スルム、ジョリードザービス）の壁に新規施設空間が配置されている。しかし、既存施設の機能などという既存空間を活用して取り入れることで、既存的も同時多面的の性質が生まれるのである。



# Oyster farm

## —廃校を利用した牡蠣加工工場—

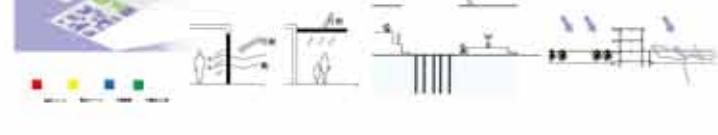
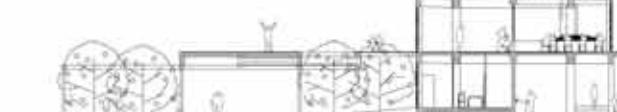
### Concept

現在の日本では、就学人口の減少による廃校が年々増え続け、島や世界になってしまったものは治安の悪化を招くこともある。かつて子供たちが学び、遊び、夢に満ちていた学校という場所が変わらなくなってしまったことで、貧困化や治安の悪化に加担してしまったことは非常に悲しくもったいないことである。

そこで本計画は地域の産業と学校建築の持つボテンシャルを組み合わせた廃校の再利用方法を提案する。



武中 庄英  
Masahide Takenaka  
環境設計研究室





#### 設計者情報

重本 真依  
Mai Shigemoto  
環境設計研究室



#### 設計意図

私は、和の空間をモチーフにした空間をつくりたいと考えています。和の空間は、和室や座布団など、和の文化を表現する要素が豊富で、それを組み合わせることで、和の空間を作ることができます。しかし、和の空間は、和室や座布団など、和の文化を表現する要素が豊富で、それを組み合わせることで、和の空間を作ることができます。



#### 構成

この空間は、和の空間をモチーフとしてつくりました。和室は、和室と和室をつなぐ廊下があります。和室は、和室と和室をつなぐ廊下があります。



#### 完成写真



■優秀賞(インテリア)

## Trimming earth for city

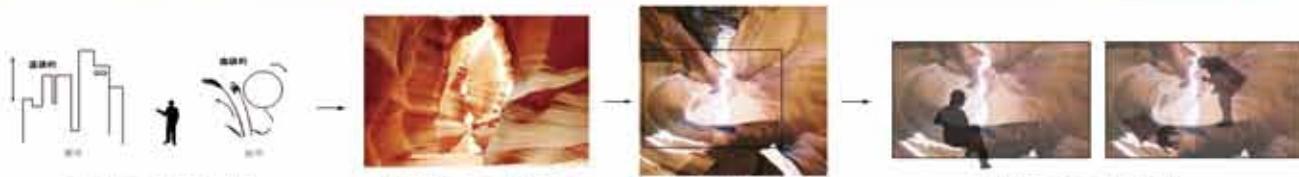
~大地の切り取り~

### Concept

都市では、ビルなどの無機的なものが多く、都市が死んだを感じる。それに対して、自然是有機的なものが多いように感じる。自然界の中でも非日常感である地盤の曲線をドライビングしてみる。トリミングしたものを形に都市の中で活用する。都市の土は技術や資源ではなく、やりとりの使い方ができる。



生中 美沙  
Misaki Ikenaka  
歴史意匠研究室



都市の地形などを想像して、地盤を干拓する行為。  
自然に対する感謝、特に、生き残るための自然の尊厳。

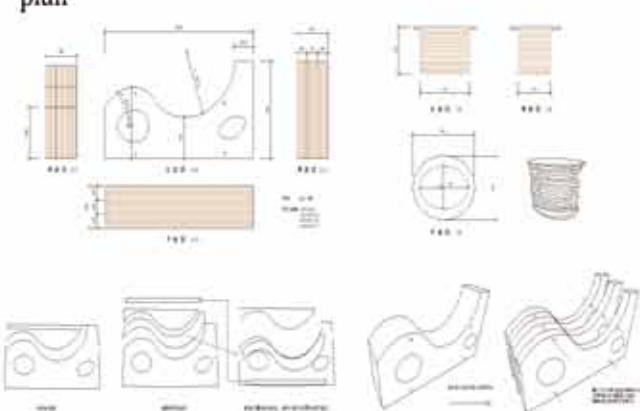
### process



### How to use



### plan



**MASTER'S**

**D E S I G N**





**2 N D    3 R D**

**D E S I G N**

将来的自邸

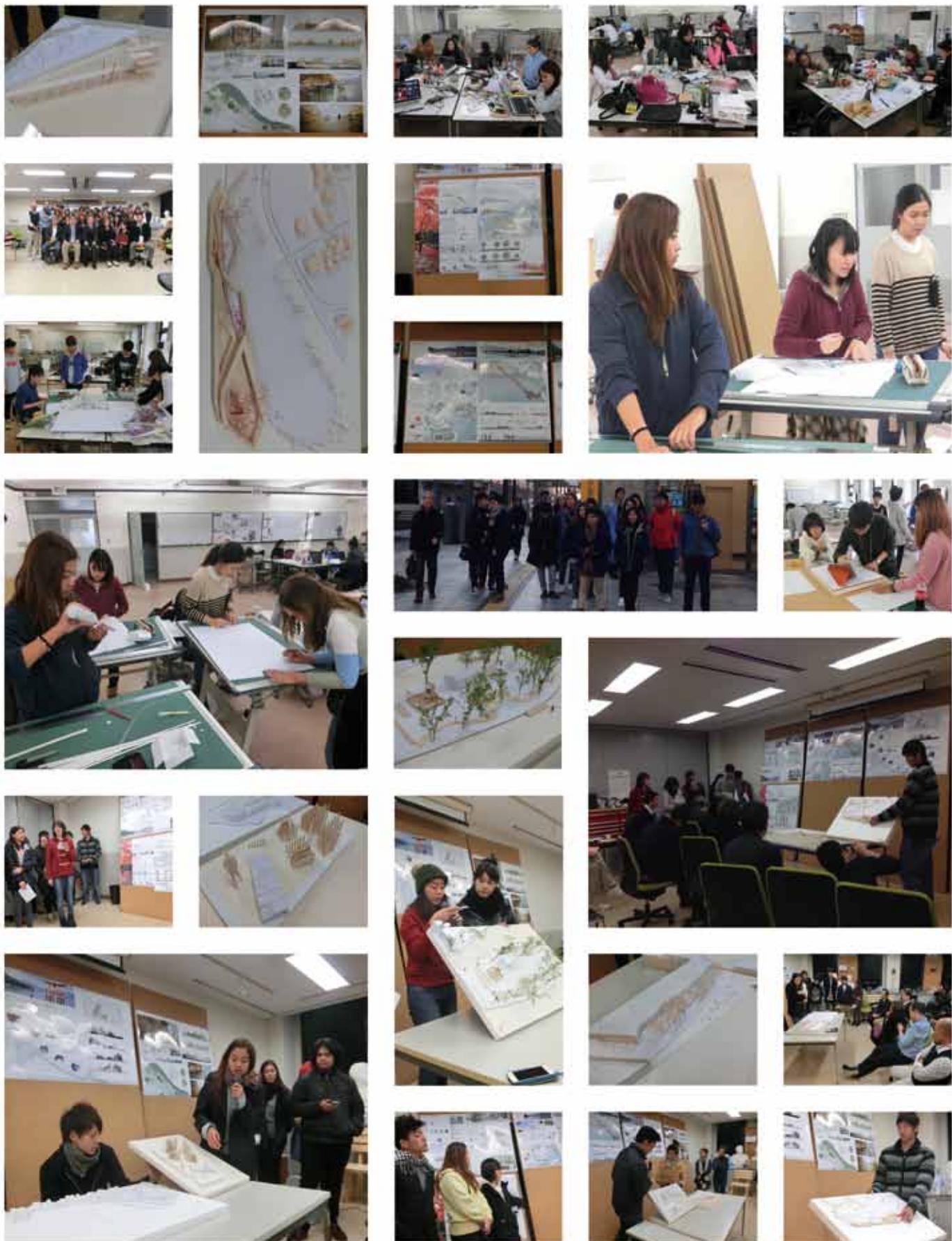


コミュニティセンター





集中演習 with Thammasat





現代美術のための美術館

藤井 雄道 / FUJII Takamichi



特別講話 建築家 大西麻衣





集合住宅

大川 幹都子 / OKAWA Satsuko



特別講師 建築家 藤原義平





集合住宅

市場 喬原 / ICHIBA Yasutaka



特別講師 建築家 赤松佳珠子





メディアセンター

岡田 邦正 / OKITA Syogo



特別講演 新建築編集長 四方舟



**D E S I G N**

# **COMPETITION**

## 「ハコ」のある暮らし



### 「ハコ」のある暮らし

私たちの生活は、直線に拘束され狭間に終わる。しかし壁紙というのは、無意識の範囲で行動をさせたり私たちのほんの一瞬にしかさせない。そこで普段したが、「ねどこ」をより意識的に利用する空間づくりである。

まず部屋の中に直角を基準た壁を作り、壁のどちらをしたもうひとつの空間をつくる。その間は床になってしまい、大きさも少し型だけが決まっている。そして部屋と部屋との境界をあいまいにすることで、住民に窮屈さを感じさせないづくりになっている。

#### □家の素材

木材フローリング／自然素材の温かい質感。南洋、赤檜、杉みや樺には才媛的な特徴があり、好みに合わせて選ぶことができる。一般に、ナラ、カバ、メープル、チークなどの高級材は硬く、スギ、ヒノキ、マツなどは柔らかいという特徴がある。また、漆喰をしていないものを選び、自然の塗料やワックスを使ってそのままの感覚を楽しんだり、好みの色をつけることも可能。その中に、自然素材に適応するが裏打ちしてあるもの。漆喰表面に施工したもの。木目や光の透け性や耐久性を高める加工を施したものがある。

所在地：神奈川県横浜市保土ヶ谷区天王町 面積：約40m<sup>2</sup> 実施年：2013年  
占有面積：44.23m<sup>2</sup>  
リノベーション：一人暮らしの働き女性  
費用設定：8万円  
お問い合わせ：ねどこに連絡してみませんか



■左上：住人は洗面台に手を洗いにしている  
玄関から入ってすぐにお風呂やトイレへつながるドアがある

■左上：住人は壁紙についている  
カーテンを閉めればまた一つの空間ができる

■右下：住人は寝床を椅子にして本を読んでいる  
時には机にもなりモノを置くことができる

■右下：住人は窓枠を上って羽を広げていくのだろうか





一つの部屋で、一人だけでも多くのことを叶える「One room One desk」

「オフィス機能をそのまま持ち、家庭での機能も兼ねた、既存のデスクに静かで、また落ち着いた空間をつくることができる。そして、家庭用の机ではなかなか叶わない、大人の空間が叶う」と、『One room One desk』の特徴を説いてくれる。

## One room One desk

家族をつなぐ、大きなつくえ



Plan

このプランは、これまでの「大きなつくえ」をさらに拡張して、家族全員がつながる「大きなつくえ」を目指すものです。



Picture



変化をもたらす家具の組み合わせで、手元

の空間を広げます。

Target

既存の大型家具やオーダー家具を買わなくてもいい、既存の壁や柱を活用して、より多くの人が同じ場所で一緒に作業できるように、多機能な家具やオーダー家具などを活用します。

Material

既存の大型家具やオーダー家具を買わなくてもいい、既存の壁や柱を活用して、より多くの人が同じ場所で一緒に作業できるように、多機能な家具やオーダー家具などを活用します。

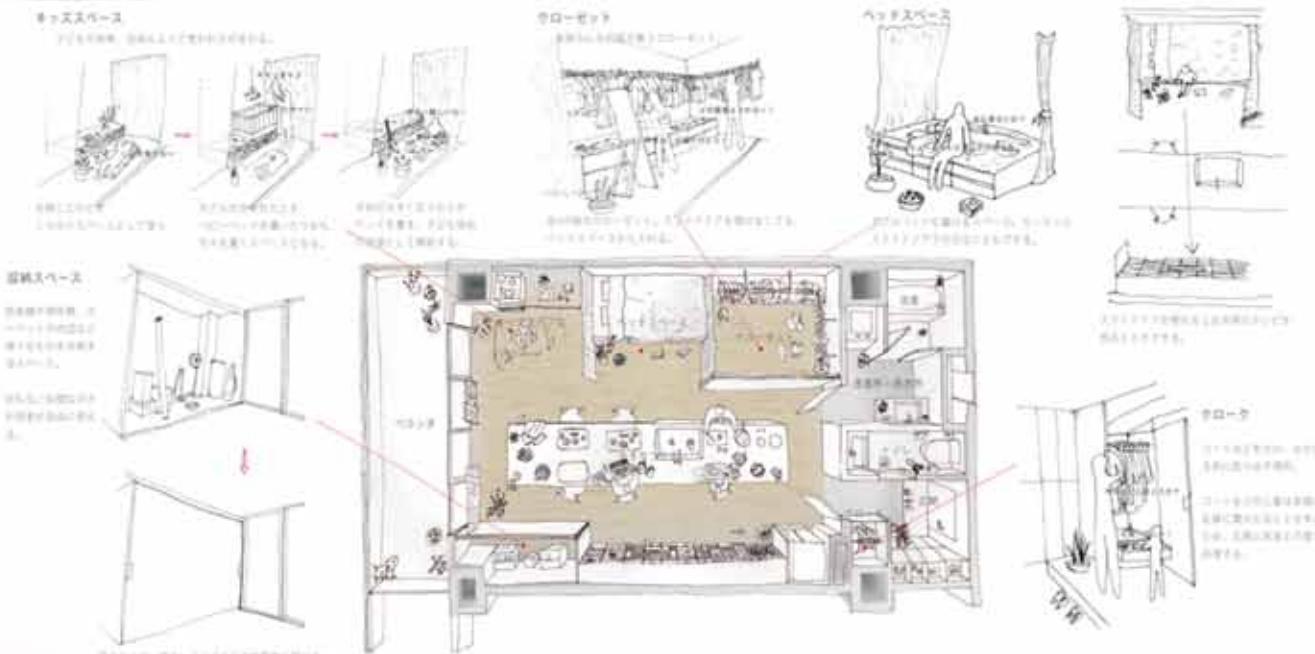
Strategy

既存の大型家具やオーダー家具を買わなくてもいい、既存の壁や柱を活用します。

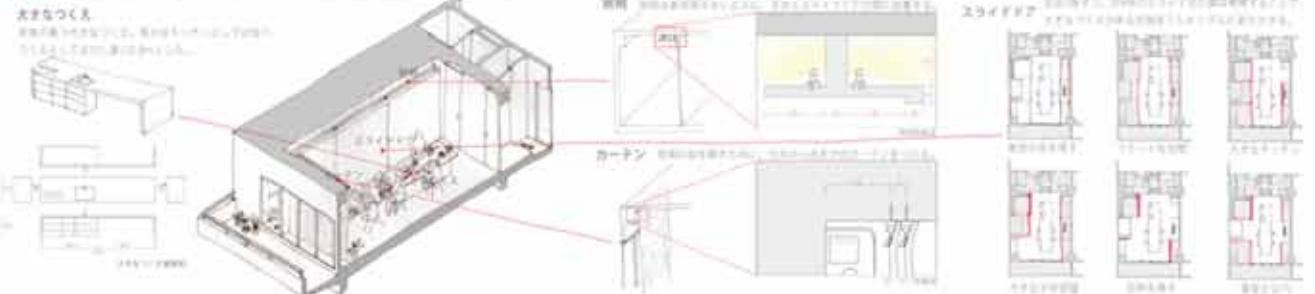
Plan

既存の大型家具やオーダー家具を買わなくてもいい、既存の壁や柱を活用して、より多くの人が同じ場所で一緒に作業できるように、多機能な家具やオーダー家具などを活用します。

Program



Detailed



# かたちの無い部屋



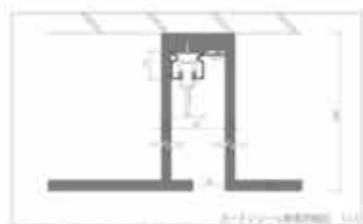
優秀賞  
牧 佑育  
Yuusuke Maki

## かたちの無い部屋

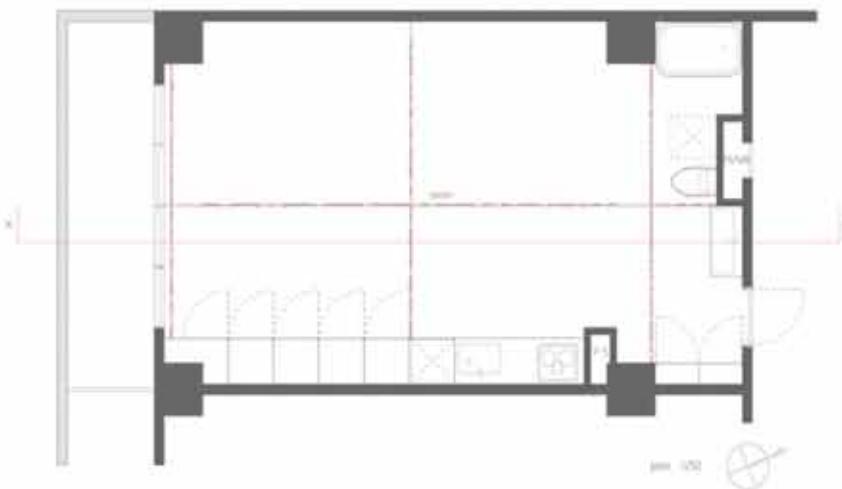
本作品は、シートトランクを壁や床に沿って配置する事で、空間の構成をどのように見せたいかを表現する。壁の内側には、カーテンアーチの構造があり、より丁寧な仕様が。  
リビングとダイニングは、ドアを介して繋がる開放的な空間です。  
洋室は、二つのアドリバーカーテンアーチとドアを設けて、各人のプライバシーを保ちながら、また、壁面だけでなく、襖やカーテンの複数の方法で空間を変化させています。  
また、カーテンアーチを多く使っている事で、室内の明るさを保ちます。



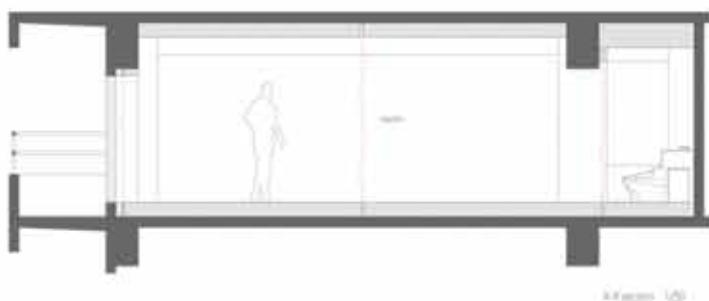
この空間による壁作りは、壁の内側を設けました。  
この壁の内側には、カーテンアーチの構造があります。  
空間に壁を作り込むことで、  
壁の内側に床を作る事によって、床の  
高さを変える事ができます。  
また、壁の内側には、ドアを設けたり、窓を作ったりする事で、  
壁の内側に壁を作ることによって、壁の  
高さを変える事ができます。



アドリバーカーテンアーチを設けた部屋で、壁の内側に窓を作りました。  
カーテンアーチとカーテンの構造を併用することで、カーテンの高さを変える事ができます。  
また、この構造は、カーテンアーチを設けて壁の内側を高くする事を可能にします。



カーテンアーチを設けた部屋で、壁の内側に窓を作りました。  
カーテンアーチとカーテンの構造を併用することで、カーテンの高さを変える事ができます。  
また、この構造は、カーテンアーチを設けて壁の内側を高くする事を可能にします。



カーテンアーチを設けた部屋で、壁の内側に窓を作りました。  
カーテンアーチとカーテンの構造を併用することで、カーテンの高さを変える事ができます。  
また、この構造は、カーテンアーチを設けて壁の内側を高くする事を可能にします。

■20歳建築学会設計競技

課題「建築のしつち」

## 家族の方舟



吉田 貞治

Sadaharu Aoto

千葉県 船橋市 塩町地区

### Background

本研究は、震災復興のための建築設計競技として実施されたものである。この競技では、被災地の現状を踏まえ、地域社会の再構築を目的とした建築設計案が評議される。



### Selection of site

本研究では、被災地の現状を踏まえ、地域社会の再構築を目的とした建築設計案が評議される。



本研究では、被災地の現状を踏まえ、地域社会の再構築を目的とした建築設計案が評議される。



### Diagram



### Community formation



### Program



### Design features

本研究では、被災地の現状を踏まえ、地域社会の再構築を目的とした建築設計案が評議される。



本研究では、被災地の現状を踏まえ、地域社会の再構築を目的とした建築設計案が評議される。



本研究では、被災地の現状を踏まえ、地域社会の再構築を目的とした建築設計案が評議される。



多様多形多広告建築。

（左）

（右）

（上）

（中）

（下）



立派な壁

（左）

（右）

（上）

（下）



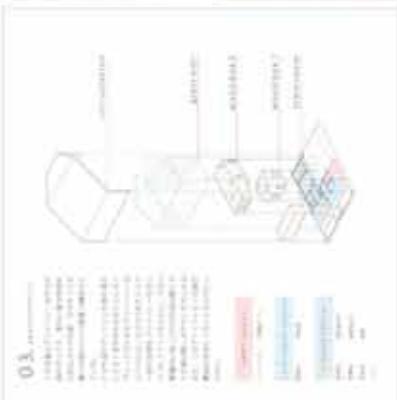
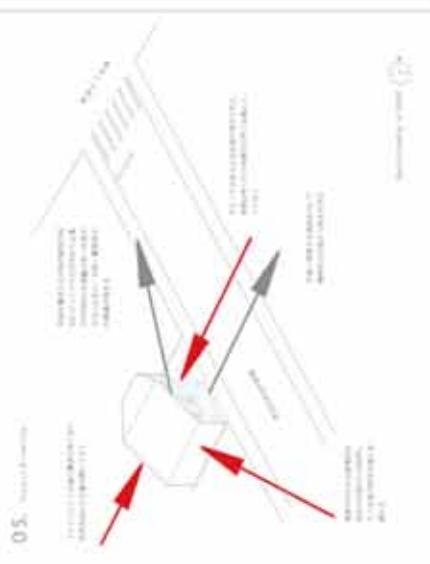
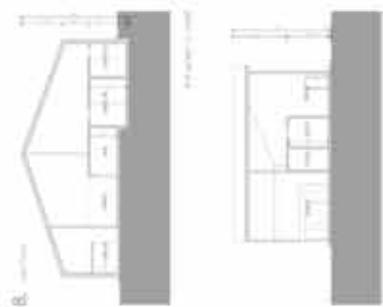
■広島建築学生チャレンジコンペ2014

課題「まちの交番」

## ハコ+ヴォイド+イエ交番



入賞  
牧 佑育  
Yusuke Maki





## 壁の交番

101. General

この提案は、壁の構造を用いて、壁の間の空間を活用する提案です。壁の構造を用いて、壁の間の空間を活用する提案です。

104. 壁の構造



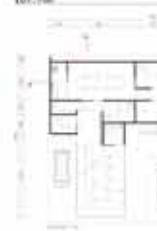
105. 壁の構造



106. 壁



107. 壁



102. 土地利用計画と規制の適応

この提案は、壁の構造を用いて、壁の間の空間を活用する提案です。壁の構造を用いて、壁の間の空間を活用する提案です。



103. 土地利用



106. 壁・コーナー



## ■ JACS 住宅設計コンペ 2014

ひとつの屋根の下と上の暮らし

## ひとつの屋根の下と上の暮らし



## ■第1回フィットハウスデザインコンペティション

### 衣替えの家



衣替

入戸  
妹尾 豊志

Takashi Senoo

コンセプト

隣を繋ぐの「衣替え」の概念をもとに、ベースを作り変えられることができる住宅は、生活が豊かになります。自由に空間を作ることができるように空間を考えた結果、日常生活で必要な機能を動かすことができる場の中に設計すると、隣の周りに生活空間ができます。場の配備の仕方にによって様々な空間ができ、生活が変わる住宅だと考えます。



2階平面図

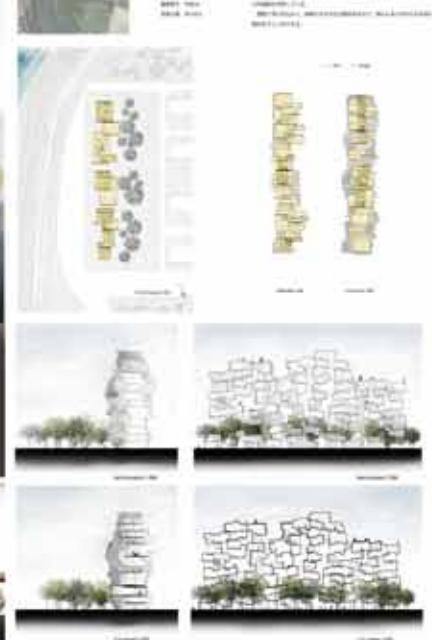
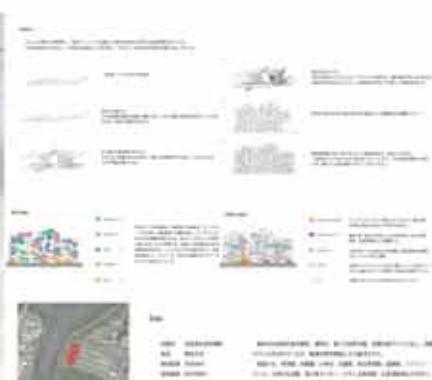


Nexus

大庭義博

090-1243-2014

ISI選  
大庭義博  
Yosutaka Itiba



■建築新人戦 SHINZINSEN2014

## Lit-Periods

101選  
藤井 隆道  
Takamiti Fuji

Lit-Periods

Project Description: This project is a landscape design for a residential area. The design features a series of large, curved concrete structures that resemble hills or pipes. These structures are integrated into the landscape, creating a sense of depth and perspective. The design also includes green spaces, trees, and paths for people to walk on. The overall style is minimalist and modern, with a focus on the interplay between architecture and nature.

Architect's Note: This project was inspired by the concept of 'light periods' in Japanese architecture. The design aims to create a sense of light and space through the use of light-colored concrete and the integration of natural elements like trees and grass. The goal is to create a peaceful and harmonious environment that feels like a natural extension of the surrounding landscape.

■建築新人戦 SHINZINSEN2014

## Wave

101選  
渡邊 文一  
Fumihiro Watanabe

Wave

Project Description: This project is a landscape design for a residential area. The design features a series of large, rounded concrete structures that resemble waves. These structures are integrated into the landscape, creating a sense of depth and perspective. The design also includes green spaces, trees, and paths for people to walk on. The overall style is minimalist and modern, with a focus on the interplay between architecture and nature.

Architect's Note: This project was inspired by the concept of 'waves' in Japanese architecture. The design aims to create a sense of movement and fluidity through the use of light-colored concrete and the integration of natural elements like trees and grass. The goal is to create a peaceful and harmonious environment that feels like a natural extension of the surrounding landscape.

Competition

52



**SEE YOU  
NEXT YEAR**

2014年度 近畿大学工学部建築学科作品集  
平成27年(2015年)7月 第一刷

発行 近畿大学工学部建築学科  
〒739-2116 広島県東広島市高屋うめの辺1  
tel 082-434-7000 fax 082-434-7011

<http://www.archi.hiro.kindai.ac.jp/>

編集 近畿大学工学部建築学科  
印刷・製本 三原プリント株式会社  
本書の全部または一部の複写・複製等を禁じます。  
Copyright (C) Kinki University, All Rights Reserved, 2014



